



猛威を奮う新型コロナウイルス in Boston



写真：Boston の街並と空になったスーパー

アメリカのコロナ感染者数は130万人を超え、死者数も7万7千人を突破しました。私の住むボストンは、ニューヨーク、ニュージャージーに次いで全米第3位の感染者数です。勿論ロックダウン下で色々な規制が敷かれています。世界一のコロナ感染国となったアメリカにいて、日本との違いを感じることを書き連ねたいと思います。

まず、広大や土地を持つアメリカでは、一般家庭でも無料で見られるテレビが100チャンネルくらいあり、しかもそれも州によって違います。日本のようにテレビ局が限定されないのが、政府機関等からのニュースでの意思伝達が遅くなり、画一化された情報を送ることが出来ないため、対策が遅れてしまいます。また、日本に比べて健康番組も少ないように感じます。

このコロナ騒動が始まってすぐ、銃を買い求める人で銃を売る店がどこも長蛇の列を成したことはアメリカの国民性が如実に現れています。コロナにより将来起こるかもしれない暴動に備えて、まずは銃を買おう、と考えるアメリカ人のマインドや概念を、日本人である私達は持っていません。日本人ならばこういう時こそみんなで一致団結して協力しなければ、というマインドが働く人の方が多いのではないのでしょうか。まるで真逆です。

そして、スーパーマーケットの陳列棚はどこもかしこもすっからかんになりました。元々アメリカは消費大国と言われるように、買う量、消費する量が日本とは比べ物にならないほど多いと感じます。日本人が持っている“もったいない”という精神がありません。どんどん買って、ばんばん捨てる、交換する、という考え方・生活スタイルです。修理しながらでも大事に使おうとはなかなか考えず、気が変わったという理由でもすぐに新しいものと交換します。スーパーの買い物カートの大きさは日本のものの3倍はあるでしょう。一般的なゴミ箱やゴミ袋の大きさも3倍ほどです。そのようなアメリカ人が買い占めを行う際、日本では考えられないような量を一人が買い占めてしまいます。肉等の生鮮食品をはじめ水やトイレットペーパー、キッチンペーパーがまず一斉になくなりました。きっと家の大きなガレージや冷蔵庫にみんな溜め込んでしまうのでしょうか。面白かったのは、そんな中でもシーフー

ドが売れ残っていたこと。やはりアメリカでは肉に比べるとシーフードは不人気なのだと再確認しました。

日本からマスク等の必需品を送ってもらおうにも、国際郵便がストップしてしまい、送ることができません。アメリカ国内の郵便は通常通り動いています。郵便と言えば、コロナパンデミックのせいで倒産する企業が相次ぎ、どんどん失業者が増える中で、この期間に収益を伸ばし 17 万人の大規模雇用を実施したアメリカの企業があります。Amazon です。Amazon の采配をどうみるのかは人により大きく見解が分かれると思います。一つは社会に貢献している素晴らしい企業であるという見方、そしてもう一方はアメリカのシンクタンク政策研究所（IPS）が命名したように“Pandemic Profiteers”「パンデミック・プロフィティアーズ」（感染症拡大で暴利をむさぼる者）とする見方です。

失業者数から見れば Amazon に再雇用されたことにより救われた人が大勢いることでしょう。Amazon の富が増えているのは、外出することなくインターネット注文で自宅まで生鮮食品を含む生活に必要なものを届けてくれるという、そのサービスを必要としている人が今多くいるということです。そして Amazon はそのサービスを供給することによって、確実にニーズに応じて人を幸せにしていると考えられます。

一方そんな中であって、全国にある集配センターでの感染対策が不十分だとして、従業員によるストライキが起こっているとのこと。感染対策が不十分なまま事業を継続・推進することの懸念は、Amazon だけではなく、今全世界のどの企業も頭を抱えている目前の課題だと思われまます。コロナは誰にとっても初めてののことだからどの企業も手探り状態で感染対策をするしかない。その為の対策費用も大規模な企業であればある程規模が大きくなり、捻出費用も莫大になります。だからその対策が出来ない企業は潰れていってしまいます。

実生活では、殆どの店が閉まってしまった中、開けてくれているお店、そして継続して働いてくれている従業員には感謝の気持ちしかありません。開いているお店があるから生活が成り立つけれど、どこも閉まってしまったらアメリカでは絶対に暴動が起きると思います。

しかし、仕事を無くした人からすれば、ストライキなどと言わずに、仕事させてもらっているのを感謝しなさいよと言うかもしれません。今、わざわざ感染のリスクを侵してまでも就職する必要を感じている人達は、家賃等が払えず、生活が困窮し、毎月の借金が膨れ上がり返済できるかという恐怖を拭い去れない人達かもしれません。しかし、可能性は低くとも病気にかかって死ぬかもしれないというリスク以上のものはないのではないかと思います。しかし、既に亡くなってしまった殆どの人が自分だけは大丈夫な気がすると思っていたにちがいないと思います。しかし、しかし…と答えの出ない自問自答が続きます。

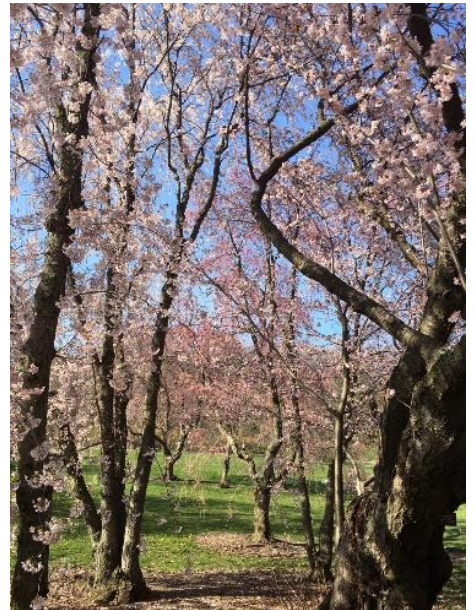
アメリカでは遺体を埋める土葬が一般的で、公園のように綺麗に整備された広い墓地が至るところにあります。最近では家族の方々がお墓の前で泣いているのがよく見られます。泣いている子どもの声が聞こえてくると胸がしめつけられます。道路には警察、救急車、そして霊柩車が行き交い、救急隊が駆けつけている光景があちこちに見られます。まさに異常事態です。具合が悪くなっても肺炎の症状がない限りはまずは自宅待機させられ、処方される薬もないので薬も飲めずにただ祈るばかり。病院に行ってもパンク状態で死に際になって家族にも会えず孤独に亡くなっていく人々。本当にどなたも自分が急に病気になって死ぬなんてこと思ってもみない人ばかりだったと思います。こういう事態を目の当たりにするといざという時のために健康な時に遺書を準備しておくことの大切さを考えたりします。

最後に、私の祖母が亡くなった友人を慕って詠んだ短歌を送ります。

雪よやさしく綿のごと降り新墓に初めての冬越すきみのため

方々でこの危機を耐え忍んでいる皆様へまたお会いできる日を楽しみにしております。合掌

松田 百合（2020年5月8日寄稿）



写真：Boston の桜

§ 賛助会員募集中 §

九州・沖縄作曲家協会では会の趣旨に賛同し、所定の年会費を納める方（法人もしくは個人）を賛助会員として募集しています。年会費は法人会員一口 10,000 円、個人会員 3,000 円です。会員になると本会主催事業へのご招待、機関誌「ジャーナル」の受け取り、法人会員については本会主催事業プログラムに法人名掲載などの特典があります。詳しくは事務局にお問い合わせください。

新型コロナウイルスとの戦い

田村 徹 (2020年4月30日寄稿)

新型コロナウイルスが地球規模で蔓延していますが皆様如何お過ごしでしょうか。

今まさに人類とコロナという未知のウィルスとの戦いの最中にありますが人類の英知はこのウィルスとの戦いに勝利するものと確信しています。

このような大きな戦いの後には人間社会の変化を余儀なくさせるための力学が働きます。世界的規模で国と国との力関係、政治、経済、哲学はもとより教育、音楽、文学、美術、医療、体育、等の文化の在り方が変化することを皆様は目の当たりにすることになるのではないのでしょうか。人類とウィルスの戦いは、人類が地球の仕組みを壊しつつある結果生じたと考えている人達が数多くいることを承知しています。とすればこのような戦いはこれからもある種の周期を持って起こることが考えられます。

私は人間対人間の戦いではありますが、第二次世界大戦前後を体験しました。第二次大戦後に憲法を始め社会の仕組みが大きく変化するのを目の当たりにしてきたということです。このことを踏まえ、コロナ戦終焉後の、政治・経済・文化・医療・娯楽・等の世界の仕組みは変わってくると考えています。

このことを音楽文化の有り様のように絞って考えると、今日、日本で音楽文化は、邦楽、洋楽の二大潮流に裏打ちされたクラシック音楽とポピュラー音楽に大別して考える事が出来ます。クラシック音楽は、歴史の変遷と地球規模での広がりに対応できる音楽、人間が持つ情操の深淵に働きかける音楽、精神性の高い、高度の表現様式を駆使して作りだされる音楽と言うことでしょうか。ポピュラー音楽は、経済の論理に支配された、ポピュリズム音楽、それは徹底した金銭的価値の論理に支配された音楽と言うことでしょうか。

今日の日本で持て囃される音楽は、クラシック音楽に携わる者から見れば残念ながらポピュラー音楽全盛期にありクラシック音楽界は委縮減少しています。私はクラシック音楽に携わる者として、この来るべき社会の変革期に、クラシック音楽の新たな価値の構築に取り組み、その立ち位置を多くの愛好者に示す時期ではないかと思っています。

こどもたちに元気を！

吉岡 愛梨 (2020年5月7日寄稿)

私は現在、佐伯市子ども・市民ミュージカルにて、楽曲制作および歌唱指導の講師をしておりますが、2月23日の「でれすけほうほう～おえい おかよの海坊主退治～」の公演を最後に、全ての活動が休止してしまった状態です。本来であれば3月末に佐伯市文化会館の閉館記念事業も兼ねているミュージカル「百年の森～ボクとムーサの物語～」の公演を終え、この時期には既に、今年開館予定の「さいき城山桜ホール」のオープニングイベントとして、「タカラとワカ～海を越える軌跡～」のメンバー募集を掛ける予定でしたが、全てがストップしている今、どうなるのか先行きが不透明な状態です。また、「さいき城山桜ホール」では、市民の皆さんと一緒に第九を歌おう……という企画もありましたが、こちらは中止となってしまいました。

ヤマハ音楽教室も、現在はレッスン自粛ということで、全てお休みしております。生徒も、まだまだ走り回ったり、飛び跳ねたり、実際に手を握ったり、頭を撫でたりすることが大切な時期の生徒が多く、オンラインレッスンが難しい状態です。

私個人の取り組みといたしましては、レッスンが出来ない代わりに、せめてもと思い、珍しい切手などを見つけてはお手紙を時折書いております。レッスンが出来ずに空いた時間は、ご依頼頂いた作・編曲をする時間に充てさせてもらっております。

また有難い事に、地方局ではありますが、「FM さいき」のパーソナリティのお話を頂きまして、今現在では週に2回の生放送を担当しておりますので、その番組内で音楽にまつわる雑学、また、クラシックの入り口になるのではないと思う、ちょっとした裏話などをご紹介したり、「楽しくなる休日の過ごし方」などをご紹介したりしております。

ミュージカル団員の子ども達や、保護者の方などから「みんなには会えなくてさみしいけど、ラジオで先生の声が聞けて、嬉しい」などのメールも頂いており、微力ながら、会えない子ども達に元気を分けられているのかな？と感じております。

オンラインレッスンですが、佐伯市内の学校が5月半ばまで休校続行が決まり、それもまたいつ延びるか判らない状態になって来ました。学校が始まらない限り、三密を避ける為にレッスンはお休みとしていますが、「オンラインレッスンでもいいから話したい」「オンラインレッスンをやってみたい」という生徒が何人か出て参りました。“レッスン”というよりも、音楽だからこそ出来る心のケアに重きを置きながら、その中でそっと、何か音楽の知識を、家の中で過ごす事が楽しくなる「何か」を渡せる、そんなオンラインレッスンになる様に色々と準備を進めているところです。ですが、オンラインレッスンが出来る状態が整っていないご家庭も多くあるので、お手紙によるコミュニケーションも続けていきたいと思っています。

§ 会員活動の紹介 §

「くまもと若い芽の作曲コンクール for Mandolin」の
お知らせとお願い

甲田 弘志

「くまもと若い芽の作曲コンクール for Mandolin」は、九州・沖縄作曲家協会からは既に後援をいただき、大変感謝申し上げている次第です。

この作曲コンクールは初心者大歓迎の小中高生のための企画で、応募締切は8月31日(月)。現在はコミュニティボードにポスターを貼るなど、広報活動に取り組んでいます。マスコミにも情報提供し、既に新聞では2社に取り上げていただきました。また、熊本市教育委員会からは所管する小中高の全校にポスター・チラシを配布していただいております。この作曲コンクールをきっかけに「曲を作る楽しみ」を一人でも多くの子どもたちが発見してくれることを願っています。

審査は熊本大学名誉教授で熊本交響楽団団員代表の山崎崇伸氏、平成音楽大学准教授(作曲・音楽理論)の西林博子氏に依頼しております。

金賞には図書カードを贈り、10月31日(土)くまもと森都心プラザで開催する熊本マンドリン協会の第52定期演奏会で演奏します。公開演奏することで子どもたちにとっては大きな励みになることでしょうか。銀賞には、使い勝手の良いベーレンライター製のスケッチ用五線ノートを贈ることとしております。

このコンクールはネット上の「公募ガイド」でも紹介されておりますが、地方からの全国展開にはどうしても限界があります。先生方の生徒さんやお知り合いの小中高生にこの作曲コンクールのことをお知らせいただければありがたく存じます。ネットで「くまもと若い芽の作曲」と検索すると、HP画面から応募用紙の印字ができます。応募用紙の郵送をご希望の方は次へお申し込みください。

電話：096-383-5714

(くまもと若い芽の作曲コンクール事務局)

メール：kenken113395@yahoo.co.jp

熊本地震の後、練習は再開できたのですが、今回は濃厚接触を避けるため集まることさえできず、ただじっと耐えるしかありません。新型コロナウィルスが一日も早く終息に向かうことを願い、演奏活動が再開できる日を思い描きながら、今は土と“農耕”接触をしております。

SARA オリジナルアルバム 「Various.」
2020年6月1日発売予定

吉田 峰明



1. 367
2. 今日は少し
3. 歌って歌って
4. マフラー
5. またひとつ
6. 君と
7. lovely road
8. 会えないから

作詞&ヴォーカル&サクソフォン：SARA

作曲：吉田峰明(7曲)/SARA(「マフラー」)

編曲：吉田峰明/松尾宗人

ピアノ：吉田峰明 ギター：松尾宗人

ドラム：mamia ヴァイオリン：ayaka

定価：1,800円(税別)

発売：株式会社活水サービス

長崎市東山手町1-50 Tel. 095-826-2055

*売上の一部は支援を必要とする方々へ寄付されます

このCDに関する情報は私(吉田)のホームページ上
その他に掲載してまいります。

内山信元会長ご逝去

2020年1月、本協会第3代会長として1992年度~1999年度の8年間、協会のために尽くされた内山信元会長がご逝去なされました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

§ 今後の協会事業のご案内 §

新型コロナウィルス収束の見通しが現時点で立たないため、今後の協会主催事業につきましては見合わせ等を検討しています。「第40回九州・沖縄現代音楽祭 in 佐伯」(2020年11月予定分)は中止いたします。

<九州・沖縄作曲家協会> <http://kcaj.net/> (「Journal」バックナンバーがPDFで掲載されています)

〒889-1605 宮崎市清武町加納乙62-62(衛藤方) / Tel.0985-85-5764 / E-mail etokei@mub.biglobe.ne.jp